

『高等部・お茶の学習』！

《宇治支援学校では「宇治茶」を取り入れた授業に取り組んでいます。》

【くらし健康コースでは…】

「和の心を感じよう」をテーマにコースのみんなで作った御神輿、掛け軸を地域文化教室に飾り茶室にあつらえました。藪の内流の先生来校のもと「お茶会」をしました。静寂な雰囲気の中、甘いお菓子や苦みの残る抹茶の味を体験しました。



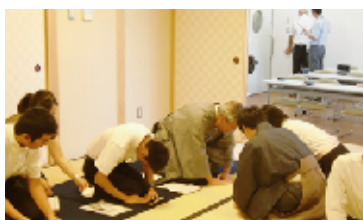
【くらし地域コースでは…】

「お茶会（煎茶・抹茶）」や茶香服体験、地域素材を活用した授業として茶染めを行いました。学級新聞やパワーポイントで発表したり、お茶を使ったお菓子を協力して盛りつけ、おいしいお茶を入れ、ロータリークラブの方や中学部の友だちに振る舞いました。



【くらし職業コースでは…】

「もてなす・もてなされる」をテーマに基本的作法（靴の脱ぎ方、ふすまの開け方、お辞儀の仕方）や茶室をしつらえ（掛け軸作成、お花を生ける、畳の雑巾かけ、作法の学習）、亭主役と客役に分かれて「お茶会」を実施しました。亭主役は相手のことを思いながら「もてなし」、客役もそれに応えるように「もてなされる」ことができました。



《宇治茶豆知識》

- 「宇治茶」の起源は、栄西(えいさい)が鎌倉時代に(1)から持ち帰った茶の種子を「栴尾(とがのお)高山寺(こうざんじ)」に蒔き、その種子を譲り受けた明恵上人(みょうえしやうにん)が宇治に伝えたことから始まります。
- 伝統と確かな品質に裏打ちされた「宇治茶」。宇治及びその周辺で生産される茶は、高品質な煎茶・玉露及びびてん茶と多種多様です。(2)は昔から全国屈指の生産地であるとともに、集散地であることを背景に全国的に有名な「宇治茶」ブランドを確立しています。
- 『おいしい宇治茶が育つわけ…』お茶を育てるのは水と栄養たっぷりの土地が大切で、「宇治茶」の産地には宇治川、木津川などが流れていて、年間1500mm以上の雨が降り、小高い傾斜のある地形で、昼と夜の温度差があって、茶の芽の大敵である(3)を防いでくれる霧が発生しやすく、おまけに土質がよくて水はけもいいからです。
- 茶道とは(4)をたてる作法で、精神を落ち着かせる修業も兼ねています。

* () に入ることばを考えてみましょう！！

<正解…1中国、2宇治、3霜、4抹茶>